

近くのスーパーで買い物をして帰る時、教会までの上り坂で、あるおばあさんを見かける度、わたしはいつも悩めます。そのおばあさんは足が少し不自由な様子で、いつも買い物のための小さなカートを押しながら足を引きずるようにして、自宅とスーパーとの道を上ったり下ったりしておられるのです。その姿を見かける度に、わたしの悩みは始まります。「どうでしょうか。助けて差し上げるか。このわたしの気持ちを素直に言えば伝わるか。いや、もしかしたら、誤解されて疑われるかもしれないし。」などと思いを巡らすうちに、わたしはもうそのおばあさんを追い越し、その姿を後ろにしているのです。それでもわたしの悩みは終わらず、教会に着いても複雑な思いは続きます。信者の皆さんはどう思われますか。わたしにとって、これはとても大きなジレンマです。勿論、韓国ならすぐ手を差し伸べたはずですが、日本では自信が無く、躊躇してしまいます。もしわたしがそのカートを押して助けて差し上げたら、今度は、カートがないとおばあさんは歩けなくなって、逆におばあさんに迷惑をかけることになります。さて、どうすればよいのかと色々考える一方で、それに悩んでいる自分が、なんと愚かで哀れな人間なのかに気づき、とても恥ずかしくなります。

今日の福音で、ある律法の専門家はイエス様に、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるのかを尋ねました。そこでイエス様は、聖書に書いてあることをどう読んでいるかを彼に問われました。それに対して彼はまるで、自分の知識を誇るかのように、「心と精神と力と思いを尽くして、神様を愛すること」と、「隣人を自分のように愛すること」だと答えました。すると、イエス様は彼に「正しい答えだ。そ

れを^{じっこう}実行しなさい。そうすれば^{いのち}命^えが得られる。」と言われました。でも、^{かれ}彼は^{じぶん}自分を^{せいとうか}正当化しようとして、「では、わたしの^{りんじん}隣人とはだれですか。」と質問したわけ
 す。そこで、イエス様はあの^{さま}有名な^{ゆうめい}善い^よサマリア人の^{じん}例え^{たと}話を^{ばなし}聞かせてくださり、
 最後に、その^{りっぼう}律法の^{せんもんか}専門家に、「行って、あなたも（その^{じん}サマリア人と）^{おな}同じように
 しなさい。」と言われたのです。

^{きょう}今日の^{たと}例え^な話^{なか}の中で、^お追いはぎに^{おそ}襲われて^{たお}倒れていた^{ひと}人の^{ところ}所に^きやって来たのは
^{ぜんぶ}全部で^{さんにん}三人でしたが、その^{なか}中で^{いちばん}一番^{さき}先に^{しさい}来た^ご司祭と^きその後^{じん}に来た^{じん}レビ人は、その^{かわ}かわ
 い^{ひと}ような^み人を見^い放して^{おそ}行って^{かれ}しまいました。恐らく、^{じぶん}彼らは^{しごと}自分たちの^{じょう}仕事上、その
^{ひと}人に^ふ触れたら^{こま}困ると思^{おも}ったでしょう。その^{ふたり}二人は、それぞれ^{かみさま}神様の^{しん}神殿で^{いろ}色々^{きよ}清い
^{ささ}捧げものを^{ようい}用意したり、^{ひと}ささげたりしていたので、その^{ひと}人の^{せい}せいで^{じぶん}自分たちの^{しごと}仕事
 が^{しんばい}できなくなるのを^{しん}心配したわけ^{おな}です。しかし、^{じん}サマリア人は^{おな}同じ^{ところ}所で^{あし}足を^と止め、そ
 の^{はんごろ}半殺しに^{ひと}されている^{いそ}人を^{ちりょう}急いで^{じぶん}治療し、^の自分の^{やどや}ろばに^い載せて^い宿屋に^い行って、それか
 ら^{よどお}夜通し^{かれ}彼の^せ世話を^わしたのです。そして、^{よくじつ}翌日になると、その^{じん}サマリア人は^{やどや}宿屋の
^{しゅじん}主人に^{ぎん}デナリオン^{かに}銀貨^{にまい}二枚を^{わた}渡して^{ひと}その^せ人の^{たの}世話を^{たの}頼み、さらに、^{かね}お金が^た足りなかつ
 たら、^{かえ}帰りがけに^{はら}払うことを^{やくそく}約束しました。きっと^{かれ}彼は^{やくそく}その^お約束通りに、^{ふた}再びその
^{やどや}宿屋に^{たず}訪ねてきたはず^{かね}です。それは、^{はら}お金を^{はら}払うため^かだけではなく、^{かれ}彼は^かその^{かわい}かわい
 そうな^{ひと}人を^{しんばい}心配していたに^{ちが}違いないと思^{おも}うからです。

この^{さんにん}三人のことを^{はな}話し^お終えられた^{さま}イエス様は^{りっぼう}律法の^{せんもんか}専門家に、「あなたは^{さんにん}この三人
 の^{なか}中で、^おだれが^{おそ}追いはぎに^{ひと}襲われた^{りんじん}人の^{おも}隣人になったと思^{おも}うか。」と問^とわれました。
^{かれ}彼は「その^{ひと}人を^{たす}助けた^{ひと}人です。」と^{こた}答えましたが、それは^{かれ}彼の^{ほんね}本音の^きように^き聞こえま

す。彼は「サマリア人」という言葉すら、自分の口にしたくなかったのです。それほど、彼は律法に拘っていて、その律法に基づいて人を義人と罪人とに分け、また、差別したでしょう。しかも、彼は元々同胞であったサマリア人への憎しみに囚われていたのです。きっと彼は、自分たちのような律法主義者たちの礼拝こそが、神様の御心に適う真の礼拝だと思っていたはずです。でも、律法とそれに基づいた礼拝のために、苦しんでいる人から目をそらした司祭やレビ人とともに捧げる礼拝が、神様を喜ばせるはずがありません。

イエス様はこの例え話を通して、そんな考え方の愚かさを明らかにしつつ、神様が望まれる真の礼拝とは、律法に沿った完璧な儀式ではなく、愛を実践することであることをはっきりと示されました。事実、イエス様は今日の第二朗読に書いているように、罪人を救うために来られ、ご自分の命を捧げて、罪で倒れている人を癒し、その罪のせいで苦しんでいる万物を神様と和解させてくださったのです。言い換えれば、イエス様は十字架上の死をもって、すべての罪人の隣人となってくくださったわけです。そのイエス様の十字架上の死こそが、一番完璧な礼拝であるのは言うまでもないでしょう。わたしたちはその十字架上の完璧な礼拝を記念し、それに与っている人たちで、今日もそれを記念するためにここに集まっているわけです。今日の第一朗読で、モーセは「御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるから、それを行うことができる。」と語りましたが、その御言葉であるイエス様の愛は、十字架のしるしによってわたしたちの体全体に刻まれています。そしてイエス様は、今日もわたしたちの人生の上り坂や下り坂で、わたしたちの助けを待ちながら、わた

したちがその隣となりにいる人ひと、すなわち、ご自分じぶんの隣人りんじんとなってくれるのを望のぞんでおられます。

信者しんじゃの皆さんみなは、善よいサマリア人じんを必要ひつようとする世界せかいと、必要ひつようがないほど豊ゆたかな世界せかいとのどちらが幸しあわせな世界せかいだと思おもわれますか。それについてのイエス様さまの考かんがえは明らかあきかでしょう。聖せいなるエルサレムから様々さまざまな罪つみが満みち溢あふれるエリコまでの道みち、それはわたしたちの道みちでもあります。神様かみさまはその道みちの善よいサマリア人じんとしてわたしたちを選えらばれ、また、今日きょうもお遣つかわしになっています。その神様かみさまのお召めしに答こたえて、これからも善よいサマリア人じんとして生いきていくことができるようお祈いのりいたします。